

2015 年度事業報告

「分かち合う暮らし」—分かち合う経験・こころ・未来

2015 年度は、今後の地球の木のあり方についての中期計画として第五次 3 か年計画を策定しました。これまでのテーマ「分かち合う暮らし」を保持し、課題別に対応策として具体的なアクションプランを作成しました。

2015 年 4 月のネパール大地震では、地球の木の支援地マンガルトール村も大きな被害を受けました。すぐに現地のカウンターパート SAGUN と連絡を取り合い、これまでにない規模の緊急支援を実施することができました。第 3 次支援まで行っていく中で、多くの団体・個人からの支援を受け、ネットワークも飛躍的に広げることができました。カンボジアのレイプ/DV 被害者自立支援プログラムは、シェルターへの訪問を重ね、より具体的な支援へと進めることができました。ラオスプログラムは報告会を実施したほか、現地の開発の問題を考えるワークショップを考案しました。

国内では、国際協力 NGO として、自衛隊が軍事面での活動を世界に拡大していく状況を危惧し、「NGO 非戦ネット」の賛同団体になり提言活動に参加しました。また、外国人に対する排外的な動きが顕著な状況に対して、これまでつながりのある団体と共に、多文化共生のイベントや連続学習会を継続し、多くの参加者を得ました。

組織運営では、7 月に認定 NPO 法人格を継続して取得しました。さらに信頼される団体となるために、アカウントビリティの向上にも積極的に取り組みました。福祉クラブ生協、生活クラブ生協など、関係団体の協力を得て、書き損じはがきや切手、貴金属など多くの物品寄付を集めることができ、財源多様化への大きな一歩を踏み出すことができました。

■■■■■■■■■■ 自立支援プログラム ■■■■■■■■■■

I. 自立支援プログラム

(アジアにおける社会的に困難な境遇にある人々に対する生活基盤確立のための自立支援事業)

●ネパール● 「幸せ分かち合いムーブメント」次のステップへ

プログラム名	ネパール「幸せ分かち合いムーブメント」
目的	都市部と農村部、私立校と公立校で教育の質に大きな格差があるネパールにおいて、村にいながら質の高い教育を提供することで、若者たちの流出を防ぎ、地域のエンパワメントに資する。
支援地	カブレバランチョーク郡マンガルトール行政村、カルパチョーク行政村
支援対象者	マンガルトール村、カルパチョーク村の村民
現地パートナー	SAGUN (サグン)
事業費	1,167,676 円

●背景

ネパールが連邦民主共和制に移行して 8 年、未だ不安定な政治が続き、若者たちの多くが出稼ぎや留学で海外に流出している。開発援助が入ってはいるが、最も必要な人々に届いていない。援助に頼ることなく、村人自身が開発のあり方を考え実現していくためには、少数民族・低カースト・女性・若者が地域社会に参加し、決定に関わることが重要である。9 年目を迎えた昨年の 4, 5 月予期せぬ大地震がネパールを襲った。支援地の村の大部分の家が全壊または半壊したため、緊急復興支援を従来のプログラムより優先する事とした。

【第1号議案】

●支援活動の実施報告

<教育支援>

- ・高校進学・継続のための奨学金の支給：11年生、12年生16名の学費を支援した。
- ・校外研修：11年生、12年生87名が参加し、視野を広げるため、王宮博物館、国立博物館などを訪問した。
- ・作文コンテスト：テーマ「大地震がもたらした子どもの教育への影響」3校から19人の高校生が参加した。
- ・教師サポート：3人の小学校教師への給与補助を行った。民族の言葉が話せる若手教師は歓迎されている。
- ・奨学金制度の評価：実施に至らなかった。
- ・作文トレーニング：実施に至らなかった。

<生活改善支援>

- ・貧困家庭への収入創出プログラム：トラクター購入により農産物の収量増加。ヤギの飼育など新しい動きが出てきた。
- ・植林：実施に至らなかった。
- ・環境への意識向上プログラム：実施に至らなかった。
- ・協同組合づくりのサポート：実施に至らなかった。

<ムーブメント推進>

- ・マンガルトールともだちキャンペーン：日本の高校生・大学生などからのメッセージを被災した人々に届けた。
- ・ニュースレター「ロシ・ラハール」の発行：実施に至らなかった。
- ・中期計画の策定：実施に至らなかった。

●国内での活動の実施報告

- ・現地調査：ネパール大地震被災者支援に合わせて2回調査を実施。
- ・SAGUN 副理事長エソダ・シュレスタさん招聘：実施した。
- ・「ロシ・ラハール」を読む会：4回実施。
- ・報告会：ネパール大地震被災者支援を含む。
- ・ワークショップ実施：5回実施。
- ・スタディツアー：実施に至らなかった。

●ラオス● 村人の森を守る権利と生活改善の応援をする

プログラム名	ラオスの森林と農業プログラム
目的	村人の食料安全保障能力を高めるという観点から、村人自らが権利を知り、力をつけて森林保全や自然資源管理による食料を確保し、持続可能な農業による食糧生産の向上をめざす。
支援地	ラオス サワナケート県（アサポン郡・ピン郡）の30村
支援対象者	上記、支援地の村民2,400世帯（JVC支援対象世帯数。その一部を地球の木で支援）
現地パートナー	日本国際ボランティアセンター（JVC）・ラオス サワナケート県農林局
事業費	477,597円

●背景

ラオスでは国民の約8割が農村部に住むが、雨季の天水を利用して稲作を行う支援地の村では、米を自給できていない世帯も多い。そんな状況でも食料確保に大きな役割を果たしてきたのが、キノコ、タケノコ、小動物などの森林からの狩猟・採集物である。こうした村人の生活に重要な森林を収用して行われるゴムやユーカリの産業植林などの大規模開発は、村人の合意がないまま進められる場合も多くトラブルも続発している。このような状況下で、村人の安定的な食料確保を行うため、農業生産力の向上に加え、権利意識の啓発など住民主体の土地森林保全の取り組みがなされている。

【第1号議案】

● 支援活動の実施報告（JVCが実施した以下の活動の一部を地球の木が支援）

＜土地森林に関する権利の向上や意識啓発＞

- ・参加型土地利用計画(PLUP)の実施：4村で実施、完了した。
- ・意識啓発ドラマ・ワークショップ：DVDでの上映を3村（計画時15村）で実施。
- ・法律研修：2月に実施。またイラスト調法律カレンダーを13団体と共に制作し、村で研修の上、各戸に配布。

＜住民による自然資源管理＞

- ・小規模自然資源管理システムの設置（魚保護区・共有林）：魚保護区は5村で実施。ほか4村で設置の合意ができた。共有林は3村で実施し、ルールも策定できた。

＜十分な食料確保を目指した持続的農業＞

- ・持続的農業研修（稲作・ラタン植栽）：雨が降らなかったことにより稲の生育状況は良くなかった。研修で紹介する栽培技術に関心を持つ村人は増えている。ラタン植栽研修は6村69名（昨年3村29名）が参加した。

＜リスクを減らす農村開発活動＞

- ・米銀行：3村で新規に設置し運用ルールも策定できた。
- ・牛銀行：5家族に対して10頭の雌牛の貸し出しを新規で実施。併せて牛小屋の建設や飼育方法の研修を実施した。既存2村ではフォローアップ（規則の振り返り）をした。

＜衛生的な水の確保＞

- ・井戸：浅井戸は岩盤や水位が深いなどの理由で予定通り掘削できたのは1村に留まった。しかし深井戸については7村で12基掘削し、230世帯分の水を確保できた。修理研修も61名に対して実施した。

● 国内での活動の実施報告

- ・JVCスタッフによる報告会を2回実施。プログラムの進捗状況やラオス社会の変化を把握することができた。
- ・よこはま国際フェスタで写真・クイズ・天秤棒での水運び体験（子ども向け）などでラオス紹介を行った。
- ・JVCからアドバイスの協力を得て「開発」関連のラオスのワークショップを考案した。
- ・現地訪問、学習会、フィールドワークについては実施に至らなかった。

● カンボジア ● 折れない心で立ち直る女性たちを応援

プログラム名	カンボジア DV/レイプ被害者支援（仮）
目的	被害者の女性たちが保護され、回復し、尊厳を取り戻し、新しい生活が始められることが出来るよう支援する。
支援地	プノンペン、シェムリアップ
支援対象者	DV・レイプなどの性的虐待被害者女性
現地パートナー	Cambodia Women's Crisis Center（CWCC）
事業費	457,936円

● 背景

カンボジアでは、広がる経済格差の中で、家庭内暴力、集団レイプなどの被害に遭う女性たちが後をたたない。このような状況に対して、現地パートナーCWCCのプログラムを通して、被害者の保護、社会復帰を支援してきた。CWCCでは、シェムリアップの保護シェルターを新しく開設するなど、手の届きにくい地方での被害者支援にも力を入れている。地球の木の支援も2年目となり、プノンペン保護シェルターへの定期的な訪問により、より詳しい状況の把握やスタッフとのコミュニケーションも深めることができ、次年度の具体的な支援へ進める一歩となった。

● 支援活動の実施内容（CWCCが実施した以下の活動の一部を地球の木が支援）

- ・保護シェルター（6か月間の生活費、識字教室、職業トレーニング含む）：321名を保護した。地球の木では、職業トレーニングの費用等を支援。

【第1号議案】

- ・心のサポート（カウンセリング）：上記保護シェルターにおいて実施した。
- ・法的サポート（訴訟のためのサポート、証拠集め）：CWCC全体で120件実施した。
- ・自立のための小規模事業開始の支援と雇用の創出：支度金を最大300ドルとして支給した。
- ・カフェの運営：CWCCでは積極的にメニューの多様化・開発を行っているため、地球の木の支援は見合わせた。
- ・地球の木による「ドリームガールズプロジェクト」のCWCC内での賞のスポンサー（Dream Girls Project=DGP）：プロジェクト関係者の事情等で実施には至らなかった。

●国内での活動の実施報告

- ・広報用のショートビデオが完成。カンボジアフェスティバル（4/25,26代々木公園）等でビデオを使ったプログラムの紹介をおこなった。
- ・地球の木カフェを2回実施し、報告をおこなった。（湘南台プラザ4/23、事務所9/30）
- ・交易販売事業と併せて7月、1月に現地訪問実施。支援者たちとの訪問ツアーは実施には至らなかった。

●気仙沼 ● 地元のためにがんばる若者を応援する

プログラム名	気仙沼 Tree Seed 応援（仮）
目的	「東日本大震災で被災した気仙沼で、仮設住宅に暮らす高齢者や子どもたちが心身ともに、健やかに暮らせるように、地元の若者たちが立ち上げたNPO法人Tree Seedを通じて、支援をおこなう。
支援地	気仙沼市
支援対象者	気仙沼市の被災者、市民
現地パートナー	特定非営利活動法人 Tree Seed
事業費	295,271円

●背景

東日本大震災で甚大な被害を受けた地域のひとつ、宮城県気仙沼市。地球の木は、緊急支援・復興支援に携わってきた若者たちが、地元気仙沼の復興のためにNPOを立ち上げ、活動するのを側面支援してきた。震災後5年前に、改めてTree Seedのメンバーと活動の継続について確認する機会を持ち、縮小はあるものの、支援継続の強い意思を確認した。地球の木でも、震災後の影響を受け続けている子どもたちや、未だに仮設住宅に暮らし、取り残されている人たちへの支援を中心に、引き続きTree Seedに寄り添いながら応援していくことを決定した。

●支援活動の実施報告

＜Tree Seedが実施する活動の中で地球の木が支援した活動＞

- ・「被災地と全国をつなぐインターネット放送」実施への環境整備に地球の木から専門家を紹介し、派遣した。
- ・「運動教室」への支援
- ・仮設・復興住宅への訪問販売を通じた住民の見守りへの支援

＜地球の木の支援した活動以外のTree Seedが実施する活動＞

- ・アーカイブ事業：映像・写真2万点の貸し出しを約10回実施した。
- ・子どもスポーツ支援プログラムとして「運動教室」を開催した。（12月）
- ・被災地視察やボランティアの受け入れ及びコーディネートをおこなった。（10回24名）
- ・移動販売（見守り支援 | 仮設・復興住宅への訪問販売を通じた住民の見守り）を実施した。

●地球の木との被災地の人たちとの交流活動など

- ・Tree Seed関係者、仮設住宅に住む人々との交流：現地訪問しモニタリングをした。（12/3,4）
- ・復興支援バスツアーは実施には至らなかった。

■■■■■■ ■■■■■■■■ **緊急支援・交易・社会教育等に関わる事業** ■■■■■■■■

II. 緊急支援

(世界各国の自然災害・社会的危機等による被災民に対しての緊急支援事業)

● **ネパール大地震被災者支援** ●

プログラム名	ネパール大地震被災者支援
目的	ネパール大地震によって被災された住民の暮らしを復旧・再生に寄与する
支援地	カブレパランチョーク郡マンガルタル行政村、他近隣行政村
支援対象者	上記対象村の被災者
現地パートナー	SAGUN (サグン)
事業費	5,007,258 円

● **背景**

4月25日現地時間11:56にネパールでマグニチュード7.8の大地震が発生。震源地は首都カトマンズ北西約80キロ。その後5月12日にも大きな余震があり、震源地周辺の中部地域で70万戸以上の家屋が全半壊し、死者は全国で約9,000人となった。余震が続く中、被災地の人々は戸外のテントや仮設の小屋で暮らしている。

地球の木とSAGUNはすぐに緊急支援を開始した。第1次緊急支援の時点から村の人々と意見交換を行いながら進めた。第2次支援では、村での合意を得るために様々なグループとのミーティングや行政との打ち合わせを丁寧に行った。9月20日新憲法成立後、これに反発する勢力の影響で、インドからの燃料や医薬品の輸入が妨害される事態が生じた。上記の2つの理由により、活動に時間を要した。

● **支援活動の実施報告**

・ **第1次支援：**

(5月)カブレ郡マンガルタル村周辺10村で、防水シート・医薬品・衛生キットを5歳以下の子どもがいる家庭、70歳以上のお年寄りがいる家庭、障がい者のいる家庭に配布。キットの中には、母親、子ども、お年寄りを寒さや湿気から守るマットレス、毛布、蚊帳、石鹼、歯ブラシ、歯磨き、浄水のための薬品などが含まれる。カウンセリング指導も同時に実施。SAGUNは村にいち早く駆けつけて村人との話し合いを持ったことが、村の人たちとの絆をさらに強めることになった。地球の木による現地調査も実施した。(6/29~7/6)

・ **第2次支援：**

(9月~2016年2月)マンガルタル村100世帯とポカリナラヤンスタン村50世帯に仮設シェルターの資材支援を行った。貧困者、高齢者、乳幼児のいる家庭、単身で子育てをしている家庭、障がい者、被差別カーストなどを対象とすることを、行政や地域の団体など様々な人の意見をふまえて決め、聞き取り調査を経て最終決定した。対象者は地域ごとにグループを作ってシェルターを建設。

(12/6~2016年2月上旬)技術トレーニングを実施(参加者19人のうち5人分を地球の木が負担)。地震に強い住宅再建に必要な技術を習得するための若者対象の2ヶ月間の技術トレーニングを実施。参加者全員修了した。防災知識のワークショップを実施。

(12/2~8)地球の木による現地モニタリング。マンガルタル村4地区と4つの学校を訪問。SAGUN、村の委員会の人たちとの話し合い。技術研修の開講式に参加。

・ **第3次支援：**

かながわ国際交流財団のかながわ民際協力基金の助成を得て、ラーニングセンター(補助教室)を2つの小学校に建設する事業を開始。対象となる学校を決定、地域行政の承認を得た。

【第1号議案】

●国内での活動の実施報告

- ・募金活動：5月緊急救援募金を開始。関連団体・理事・会員の関係者など350件以上の個人・団体からの寄付があった。
- ・報告会：協力団体への報告会を通じて、新しいネットワークができ、地球の木のアピールも行うことができた。
(5/9@MARE、5/29 横浜みなみ生活クラブ総代会、6/3 神奈川ネットあおば、7/11 なか区民活動センター、7/21 東戸塚お茶の間楽交、7/26WE21 つるみ、8/2 港南台国際協力まつり、8/25 神奈川ネットワーク運動、8/29WE21 相模原、10/29 ひらつか市民活動センター、11/8 大和・カッコーフェスタ、11/22 災害支援フォーラム in かながわ、2/6 よこはま国際フォーラム)

Ⅲ. 交易販売事業

(相互の自立に役立つ生産物の交易)

- ・イベントやお祭りなどで地球の木の紹介をしながら「幸せ分かち合いクラフト」の販売を行った。
- ・オリジナルフェアトレード品の企画、生産、販売を行った。
- ・生活クラブ生協（共同購入・デポー販売18回）、福祉クラブ生協（共同購入2回）と協力して販売を継続した。
- ・新規販売先の開拓：卸販売先として、地域で活動する会員の紹介でセレクトショップ「Rappalo」（本町本店、全4店舗）での販売を開始した。
- ・クラフトチームを立ち上げ、協力体制を構築：新しいスタッフを中心にボランティア・インターンを含めた販売体制・生産管理体制の強化・構築を試みたが、スタッフが中途退職したため、十分な活動ができなかった。

Ⅳ. 社会教育事業

(相互理解を深めるための交流ならびに国際協力推進のための社会教育事業)

■出前講座

- ・出前講座を実施した。(中学校2校、高校3校、NGOからの依頼1回(計6回))
- ・開発教育協会(DEAR)の教材体験フェスタに参加し、マジカルバナナv3のワークショップを実施した。

■地球市民教育

- ・ジギャン・クマル・タパさんを講師として地球の木講座『ネパールから見た日本 日本から見たネパール』を開催した。(1/30 参加者39名)
- ・「ラオス森の絵本」(仮称)について、田島征三さんと協議を継続した。
- ・国内スタディツアー(藤野)を4月に実施。このツアーの学びから、会員同士の助け合いの仕組みとしての物々交換の場づくりを企画した。

■多文化共生(参加したイベント、学習会)

- ・あーすフェスタかながわ2015(5/16-17、企画委員として参加)
- ・第15回南北코리아と日本のともだち展(2/12-15 アーツ千代田3331、実行委員として絵画展開催に協力)
- ・第3回外国人学校の子どものための絵画展(2/16-3/6 横浜市中央図書館、実行委員として協力)
- ・連続学習会「かながわ『共に生きる』学習会」を実施した。(10/31 参加者26人、2/27 参加者20人)

■地域活動

- ・「たうんチーム連絡会」を毎月行い、勉強会や情報交換を活発におこなった。
- ・地域イベントにも積極的に参加し、ネパール大地震被災者支援の報告会も2回実施。活動アピールを行った。
- ・新規の活動メンバーの増員を図ることはできなかった。
- ・下記イベントに参加し、地球の木の活動紹介を行った。
鎌倉市市民活動の日フェスタ(5/9)、ふれあい交流広場まつり(7/1)、ひらつか市民活動センターまつり(9/27)
なか区民センターまつり(10/11)、平塚ネパール地震報告会(10/29)、いそご国際交流フェス(11/8)、
かまくら国際交流フェスティバル(11/1)、大和カッコーフェスタ・ネパール地震報告会(11/8)、
深沢高校ワークショップ(11/12)、ちがさきサポセンワイワイまつり(2/27)

【第1号議案】

■ その他販売

- ・「国際協力カレンダー」の販売を行った。(生活クラブ生協、福祉クラブ生協の協力を得て 711 部販売)
- ・開発教育教材「マジカルバナナ v3」の販売を行った。(本体 41 冊、CD-ROM38 枚、カード 12 枚を販売)
- ・イベントで活動のアピールをしながら食品の販売を行った。(あーすフェスタでのちぢみ販売など)

V. 広報・政策提言などの事業

(社会教育事業に関して、機関誌等の広報活動ならびにそれらを通して行う政策提言などの事業)

■ 広報活動

- ・会報誌を 4 回発行した。
- ・ホームページ、Facebook での情報発信を行った。

■ 政策提言

- ・NGO 非戦ネットの賛同団体となった。
- ・KOREA こどもキャンペーン(呼びかけ団体)として、戦後 70 年に寄せる市民からの声明「今こそ歴史を真摯に受けとめ、市民同士がつながり、東北アジアの平和をつくっていきましょう」を発表し、賛同者を集めた。

VI. ネットワーク活動

(地球の木の目的にかなう事業を行っている団体との情報交換および協力事業)

【理事・運営委員などとして運営に参加する団体】

理 事：横浜 NGO 連絡会 (YNN)、かながわ生き生き市民基金

運営委員：フォーラム・アソシエ、かながわ復興支援ネットワーク(YNN)

委 員：キララ賞選考委員会

実行委員：「あーすフェスタかながわ 2015」実行委員会、「南北 코리아 と日本のともだち展」実行委員会、
「東日本大震災 復興支援まつり」実行委員会、「外国人学校の子もたちの絵画展」実行委員会

そ の 他：KOREA こどもキャンペーン(呼びかけ団体)、あーすネットかながわ幹事会(幹事)、
東日本大震災復興・支援ネットワークかながわ(幹事)、ピビンバネット(参加団体)

■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■ 組織運営など ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■

- ・認定 NPO 法人の法人格を継続して取得した。
- ・第 5 次 3 カ年計画を策定した。
- ・設立 25 周年記念事業実行委員会を設置した。
- ・NGO のアカウントビリティ向上の取組みとして、国際協力 NGO センター (JANIC) のアカウントビリティ・セルフチェック 2012 を実施した。
- ・かながわボランティア活動推進基金 21「かながわボランティア活動奨励賞」を受賞(活動奨励金 800,000 円)。
- ・生活クラブ生協、福祉クラブに協力を依頼し、「もったいないを国際協力に！」キャンペーンとして書き損じハガキ、切手、貴金属などの募集をおこない多くの物品寄付を集めることができた。

地球の木会員数 (2016 年 3 月末)
正 会 員： 157 名
サポート会員： 563 名 (内団体会員 5)
合 計： 720 名

2015 年度入退会者数と主な退会理由
入 会 者： 7 名
退 会 者： 24 名
・活動整理 ・経済的理由 ・病気、高齢のためなど